

令和6年2月5日

各報道機関 御中

連 絡 先
課 名：健康づくり課
電 話：0598-20-8087

一次二次救急医療体制あり方検討について（報告）
－救急搬送患者に対する「選定療養費」の取扱いについて－

1. 選定療養費（制度）とは

国は、医療機関の「機能分担」と「相互連携」を推進するため、200 床以上の病院において、他の保険医療機関等からの紹介なしに初診で受診した患者の場合、初診料以外に各病院で定めた金額を頂く制度「初診・再診時の選定療養制度」を定めています。

この制度は、「初期診療は地域の医院や診療所等のかかりつけ医で行い、高度・専門医療は病院（200 床以上）で行う」ことを推進するものです。

平成 28 年 4 月の健康保険法の改正により、200 床以上の地域医療支援病院は、他の保険医療機関等からの紹介状を持たない初診の方から、選定療養費として診療費の他に 7,000 円以上の金額を徴収することが義務化され、三基幹病院（済生会松阪総合病院、松阪中央総合病院、松阪市民病院。以下「三病院」という。）においても、外来診療において、既に 7,700 円（税込）にて運用を行っています。

基幹病院/高度・専門的医療の提供など、地域に必要な医療の中核としての役割を担うとともに、中等症以上の患者を受け入れ
地域医療支援病院や災害拠点病院、地域医療連携など地域医療支援等の拠点としての役割を担う病院

2. 松阪地区における「一次二次救急医療あり方」検討について

松阪地区広域消防組合消防本部において、年々、救急車の出動件数が増加しており、令和 4 年には 15,539 件、更に令和 5 年には 16,180 件となり、過去最多を更新しました。

このままの状態が続くと限界を迎え、「助かるはずの命が助からない」、「早期治療が出来なくなる事態」も発生することが考えられます。

まずは、かかりつけ医、地域の医院や診療所等を受診し、医療機関の機能・役割に応じた適切な受診が実現できるよう、令和 3 年 12 月 15 日開催の三病院連絡会にて市長より「一次二次救急医療体制のあり方について協議をお願いしたい」旨の提案を行いました。

三病院連絡会のワーキンググループとして「一次二次救急医療体制あり方検討会議」を発足し、令和 4 年から令和 5 年にかけて、調査・協議等を行いました。

救急車の適正利用及び適正受診については、定期的な広報や啓発等を実施してきましたが、広報や啓発等のみでは効果が得にくいことから、先進的に「救急車で搬送された、軽症な患者から選定療養費を徴収している病院」の調査を実施しました。

また、二次救急医療は、主に中等症の傷病者、入院治療を要する中等症患者に医療を提供する場であることから、「救急搬送され、基本入院に至らなかった患者（軽症者）」から選定療養費を徴収することについて、協議を行いました。

その他、2年間に亘り松阪地区の一次二次救急医療体制を守るため、関係機関とともに検討を行いました。

■三病院に救急搬送等された患者調査

松阪地区における二次救急医療は、三病院が夜間、休日においては輪番制で担っています。（松阪地区広域消防組合消防本部の救急搬送件数の約96%）

令和4年4月～6月の3か月間において、三病院に救急搬送等された患者の実態調査を行いました。

（1）平日昼間に救急車で来院

入院なし	516人(49.4%)
入院あり	528人(50.6%)

（2）二次救急輪番日に救急車で来院

入院なし	1,387人(62.9%)
入院あり	819人(37.1%)

（3）二次救急輪番日にウオークインで来院（「紹介状あり」の方を含む）

入院なし	302人(71.2%)
入院あり	122人(28.8%)

■検討経過

令和3年12月15日	三病院連絡会
令和4年3月	三病院、松阪地区医師会から委員選出
同月	市立伊勢総合病院、伊勢赤十字病院の調査
令和4年4月～6月	三病院「救急患者の状況」調査
10月24日	三病院事務部長協議
11月14日	一次二次救急医療体制あり方検討会議
12月21日	三病院連絡会【中間報告・協議】
令和5年4月～6月	市休日・夜間応急診療所等「一次救急患者の状況」調査
8月23日	多気郡3町担当課長協議
9月1日	松阪地区医師会理事協議
9月～10月	三病院院長、事務部長から意見伺い
11月6日	一次二次救急医療体制あり方検討会議
11月7日	「救急車の選定療養費徴収病院」の調査
12月6日	三病院事務部長協議
12月	三病院院長、事務部長から意見伺い
12月18日	三病院連絡会【報告・協議】

■関係機関

医師会：松阪地区医師会

三病院：済生会松阪総合病院、松阪中央総合病院、松阪市民病院

消防：松阪地区広域消防組合消防本部

自治体：松阪市、多気町、明和町、大台町

一次救急医療/主に軽症の傷病者に提供する医療
二次救急医療/主に中等症の傷病者、入院治療を要する中等症患者に提供する医療
三次救急医療/主に生命の危機に関わるような重篤な救急患者に提供する医療
三病院連絡会/松阪地区の二次救急医療に携わる三病院(済生会松阪総合病院、松阪中央総合病院、松阪市民病院)の院長、副院長等、松阪地区医師会、松阪保健所、松阪地区広域消防組合消防本部、自治体等が一堂に会し、一次二次救急の実績や現状を確認しつつ、今後の対応等について、協議を行うとともに次年度の二次救急輪番体制を決定するため定期的に開催している会議。

3. 今後の方向性

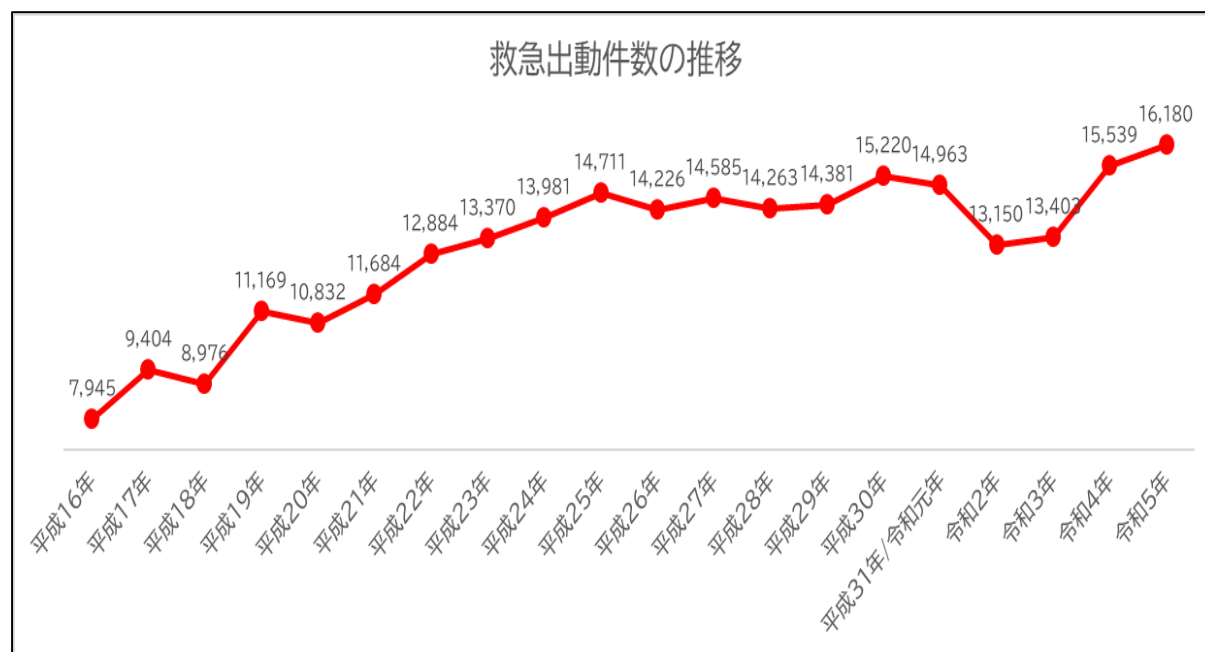
まずは、かかりつけ医、又は地域の医療機関を受診し、必要に応じて紹介を受ける等、医療機関の機能・役割に応じた受診の実現と、救急車の適正利用の取り組みの一つとして、二次救急医療を担う三病院にて、「救急搬送され、基本入院に至らなかった患者（軽症者）」から選定療養費を徴収する（対象外を除く）ことを関係機関合意の上で決定しました。

開始時期	令和6年6月1日(土) 午前8時30分以降
実施病院 (三病院)	済生会松阪総合病院 松阪中央総合病院 松阪市民病院
対 応	「救急搬送され、基本入院に至らなかった患者（軽症者）」から選定療養費を徴収する。 ※徴収対象外とする場合 ・入院に至った方 ・紹介状持参の方 ・公費負担医療制度の対象の方 ・災害により被害を受けた方 ・労働災害、公務災害、交通事故 ・医師の判断による
料 金	7,700円(税込)/1件(人)
周知啓発	ポスター・チラシの掲出・配布、広報まつさか、自治会回覧、ホームページ、行政チャンネル、松阪ナビ 等

参考資料（松阪地区広域消防組合消防本部：管轄 松阪市、多気町、明和町）

1 救急出動件数の推移

年々、救急車の出動件数が増加しており、令和4年には15,539件、更に令和5年には16,180件となり、過去最多を更新しました。



2 救急出動の状況

松阪地区広域消防組合消防本部における人口1万人当たりの救急出動件数は、令和4年（速報値）において、全国の人口同規模の消防本部と比較すると突出して1位（三重県内4位）となっています。

また、「1日（24時間）に救急車が50件以上出動した日」は、令和4年においては、71日、令和5年においては、94日発生しています。

（4署5分署・救急車配置台数13台）

（1）三重県内（令和4年）

都道府県	消防本部名	人口	救急出動件数	人口1万人当たり	全国順位
三重県	鳥羽市消防本部	17,212	1,524	885.4	11
三重県	志摩市消防本部	52,395	4,586	875.3	14
三重県	紀勢地区広域消防組合消防本部	20,835	1,779	853.9	17
三重県	松阪地区広域消防組合消防本部	195,910	15,539	793.2	27
三重県	三重紀北消防組合消防本部	30,796	2,261	734.2	37
三重県	熊野市消防本部	34,258	2,292	669.0	82
三重県	津市消防本部	272,645	17,589	645.1	113
三重県	伊勢市消防本部	144,738	9,172	633.7	133
三重県	伊賀市消防本部	87,139	5,494	630.5	140
三重県	鈴鹿市消防本部	196,461	10,755	547.4	363
三重県	名張市消防本部	76,177	4,041	530.5	420
三重県	桑名市消防本部	214,199	10,888	508.3	488
三重県	四日市市消防本部	336,360	17,035	506.5	491
三重県	亀山市消防本部	49,755	2,425	487.4	556
三重県	菰野町消防本部	40,182	1,777	442.2	669

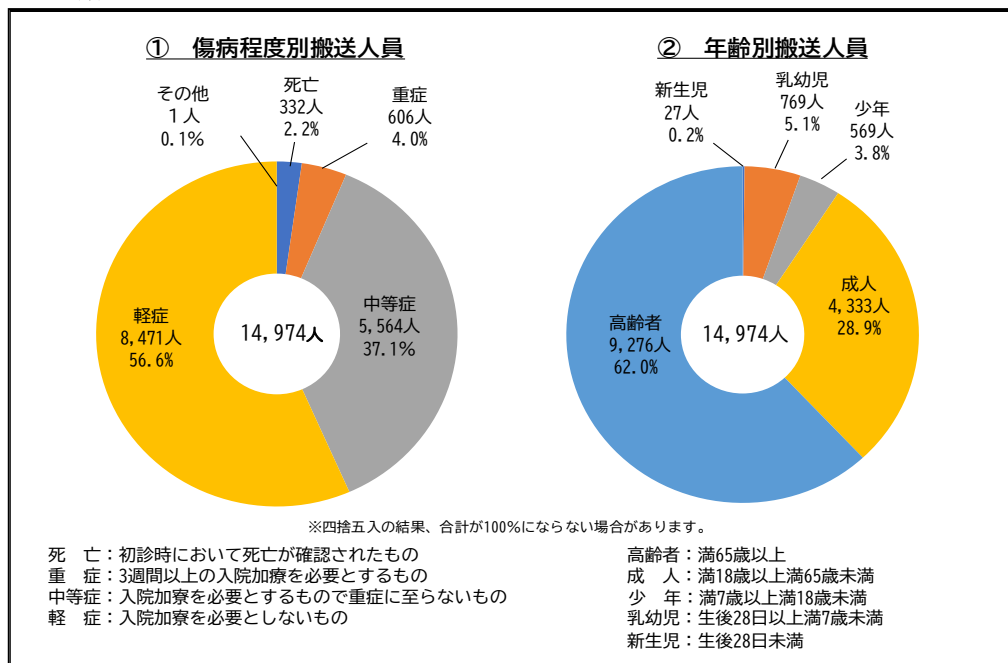
(2) 全国同規模（人口 190,000 人～198,000 人）（令和 4 年）

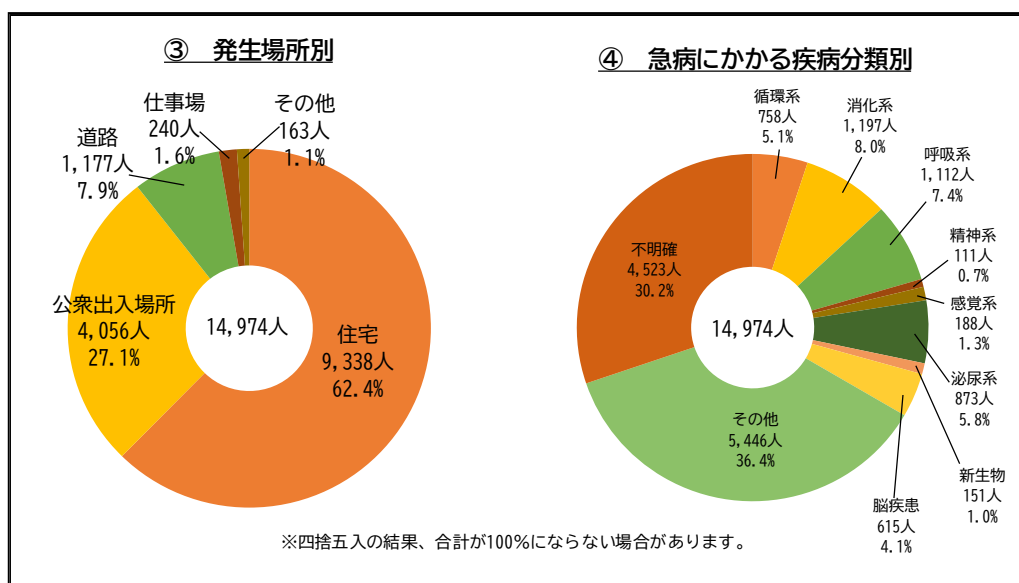
都道府県	消防本部名	人口	救急出動件数	人口1万人当たり	全国順位
三重県	松阪地区広域消防組合消防本部	195,910	15,539	793.2	27
埼玉県	熊谷市消防本部	193,132	10,658	551.9	345
長野県	上田地域広域連合消防本部	191,344	10,475	547.4	362
三重県	鈴鹿市消防本部	196,461	10,755	547.4	363
宮城県	大崎地域広域行政事務組合消防本部	192,032	9,921	516.6	462
長野県	諏訪広域消防本部	190,277	9,488	498.6	520
茨城県	筑西広域市町村圏事務組合消防本部	190,995	9,520	498.4	522
島根県	松江市消防本部	197,843	9,826	496.7	530
栃木県	小山市消防本部	192,447	9,521	494.7	534
茨城県	ひたちなか・東海広域事務組合消防本部	192,660	9,137	474.3	594
熊本県	菊池広域連合消防本部	191,302	8,984	469.6	607

(3) 救急出動・搬送の状況

	合 計		1日平均		50件以上救急出動 があった日数
	件数	搬送人員	件数	搬送人員	
令和4年	15,539	14,974	43	41	71
令和5年	16,180	15,525	48	46	94
比 較	641	551	1	5	23

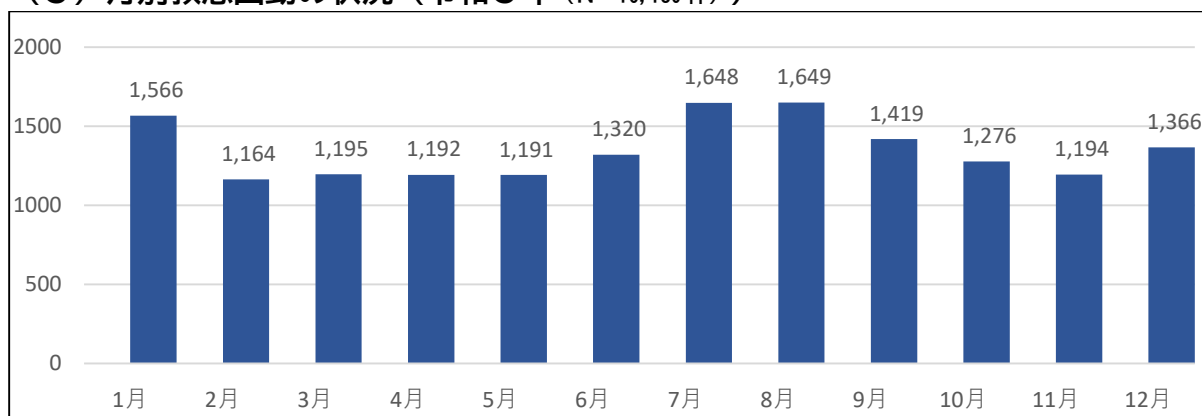
(4) 救急搬送人員の内訳（令和 4 年）





※高齢者福祉施設からの搬送（2,008人（全搬送数の13.4%））は、「公衆出入場所」に含みます。

（５）月別救急出動の状況（令和５年（N=16,180件））



※7月、8月及び12月、1月に搬送件数が多くなる傾向

（６）時間帯別救急出動の状況（令和５年（N=16,180件））

